

## 『頼られる存在への決意』

打田中学校 3年 脇田 さくら

2023年7月11日。私のお父さんが救急車とドクターヘリで運ばれた。脳と全身をつなぐ神経の束が損傷する脊髄損傷だった。ものすごい痛みでご飯も食べられなかったと言っていた。足の感覚もなくなり、歩けなくなってしまった。私は悲しくなった。長い間入院していた。この時私は、お父さんが元気で家にいること、楽しく話せること、いっしょにご飯を食べることが当たり前じゃないということに気づいた。面会もよく行ったりしていたが、言葉がつまる感じがしてあまり話せなかった。お父さんがいないと不安で、家事もお父さんにしてもらっていたことも全て自分たち姉妹でしないといけなくなった。もちろん、病院のお見舞いと家事で忙しくなるお母さんの手伝いもした。

退院し、お父さんが家に帰ってきた。体は痩せ細っていて、腰に大きなコルセットをまいて、大きな杖をついていた。入院中の話を聞くと、「大きな杖をついても歩けなかったのが、入院中のリハビリで歩けるようになった」というのを聞いて、私はこれから何事にも諦めずに頑張ろうと思った。強い意志を持つことの大切さを学んだ。

今私は、中学3年生。受験生。本気で勉強を頑張らないといけいない。心が折れそうでも、くじけそうでも、お父さんのことを思い出し、諦めずに頑張ろうと思う。お父さんとお母さんが応援したいと思ってもらえるようになりたい。お父さんがリハビリに励んでいる姿を見て、苦しい時も勉強を頑張っていこうと思う。

私には2人の妹がいる。私が見たお父さんの諦めない姿を真似し、妹たちにも「諦めずに頑張ろう」と思ってもらえるようなお姉ちゃんになろうと思った。

私は、入学してから吹奏楽部に入っている。入部してから今まで、思うようにいかなかったときや友だち関係・上下関係でトラブルがあったときなど何度も辞めたいと思うことがあった。失敗してしまったときこそ、前向きに、後ろを振り返らず進んでいこうと思った。どんな壁も乗り越えていける強い自分になるという気持ちを忘れずに毎日過ごしたい。

私のお父さんを助けてくれた救急隊員や病院の方々、リハビリの先生のように誰かを助けられる、頼られる人になって周りの友だちや今まで支えてくれた家族を大切にしていきたい。

この経験から、当たり前の日常が当たり前ではなかったということ、何があっても諦めないことがどれだけ大切か知ることができた。

これからは、お父さんの諦めない姿を真似して、受け取った諦めない姿を実行

し、今度は自分が妹や周りの友だちに「すごい」って思ってもらい、真似してもらいたい。日々の諦めない姿で家族や周りの友だちの「信頼できる人」になるということを意識したい。

以前は当たり前だと思っていた家族が揃ってご飯を食べる時間が、実はとても幸せなことだということを今は強く感じている。私もこれから勉強や部活動などで壁にぶつかってしまったとしても、お父さんのように諦めず、前を向いて1歩ずつ努力し続けたいと心から思った。自分を信じて、何事にも挑戦していきたい。

お父さんの諦めない姿を忘れずに1日1日を大切に過ごしていきたい。そう思わせてくれたこの経験を一生心に残しておこうと思う。

